

OISCA

— 人と育む、地球といきる —



〔TOPIC〕

能登半島地震復興支援レポート

木育でつなぐ～子どもと森と地域の輪～

JULY | 7
2025

今月の
OB & OG

日本で学んだオイスカ研修生の今を紹介します。

日本で出会った
妻と一緒に
ブドウづくりを
頑張っています！



FILE
No. 06

ウォラチェスト・カティヤ (50)

愛称：ジョンラック

■出身国 タイ

■研修歴 西日本研修センター／

果樹栽培（1996年2月～97年4月）

■現在の職業 BAAC銀行（農業・農協銀行）



インドネシア出身の妻とはセンターで会いました

タイの農業の価値を高めたい

日本での研修で印象に残っているのは、農業の手法です。小さな土地でも農業が可能で、それで生計を立てられると学んだ時、新しい考えの扉が開かれたような気持ちがしました。日本では農家の社会的な地位が高く、二次産業、三次産業と同等だと感じました。他国では農業は大変な職業だと思われています。またオイスカ研修センターの先生方のボランティア精神や献身的な姿に感動し、印象に残っています。

帰国後はラームカムヘング大学へ進学しました。この大学はオープンな教育制度で、在学中でも仕事ができ、インドネシアのボランティア活動に参加したこともありました。現在はBAAC銀行で働き、個人農家にローンの貸付やアドバイスをしています。時間のある時は日本で学んだ手法で農業をし、近隣の農家の方々にもその手法を紹介しています。タイの農家は、ほかに仕事がないために農業をしている人が多く、農

業がやりたくてやっているわけではありません。大変な仕事であり収入も低いため、ほかの職業に就いている人から見下されているきらいもあります。タイの農家の方々が知識を持ち、日本の農家のような高収入を得て、生活が豊かになるよう、そしてコストを下げて農産物の価値を高め、タイの農業の価値も高めていけるよう取り組み続けていきたいです。

今、私は自分の畑にOISCA OB '96の看板を立て、いつもオイスカを心に農業をしています。



おいしいブドウ、食べに来てください！



創立者のことばを紐解く

日月星辰

公益財団法人オイスカ 理事長 中野悦子

人類は皆家族

「天地宇宙の大恩に感謝する精神から出た産業となつてはじめて、大自然に生きる人間としての誠心誠意のある活動となるのである。」

しかしながら今日では、産業を国の生活を富ます手段と考え、利潤、欲得を第一義として行っているが故に、産業の進んだ国、遅れた国、未開発の国が入り乱れて世界は惨憺たるものとなっているのである。いずれの国も自国の繁栄だけに心とられ目がくらみ、大国の抑圧と小国の抵抗が反復されて、騒然となっているのである。大国が小国を援助しているが、小国の繁栄のためを考えていることよりも、自国の利益から出発した援助となっているのではないか。小国から疑いと警戒の目で迎えられるのは当然であつて、折角の援助が真の援助、感謝される援助となっていないのである（創立者のことば）

創立者は常に「人類は皆家族である」と語りました。「兄弟であつても、頑丈な身体を持ち優れた頭脳を持っている子もいれば、健康に恵まれない子もいる。しかし弱いからといってその子を排除しないではないか。家族であればお互いに補い合い助け合つて仲良く暮らしているのではないか」と。

そのような考えが基本にあつて、アジアの国々の人々が自国で幸せに生きていけるように、と農業技術者の派遣を開始しました。独立を果たしたとはいえ、早魃等に見舞われ、戦後の日本と同じように食糧難にあえいでいるのを見過ごすことはできなかったのです。

生きることは食糧のことですから、何よりも優先したのが農業の発展です。派遣された技術者たちは創立者の「人類は皆家族だ」という思いを大事に、現地の人々と同じものを食べ、同じような環境の中で生活しました。そうしてオイスカは六三年の歴史を刻んでいます。



OISCA JULY 2025 | 7 Contents

- 04 OISCA NEWS 海外／国内
- 06 TOPIC 能登半島地震復興支援レポート
木育でつなぐ～子どもと森と地域の輪～
- 08 特別企画 受け継がれる「ふるさとの森」 ～ヌエバビスカヤ植林プロジェクト～
- 10 今月のこの人 オイスカ愛知県支部会員 福田香緒里
- 12 OISCA SQUARE オイスカ歴史さんぽ／OISCAレストラン／お！ススメOISCA
- 14 INFORMATION 新着情報 ほか

What's OISCA

オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に創立された国際協力NGOです。現在、41の国と地域にネットワークを持ち活動しています。

公益財団法人オイスカは、1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開。特に人材育成に力を入れ、オイスカの研修を修了した現地の青年は、各地で地域開発に取り組んでいます。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通して啓発活動を積極的に進めています。

OISCAという名称の意味

O	rganization	機構
I	ndustrial	産業
S	piritual	精神
C	ultural	文化
A	dvancement	促進

人間の生存に不可欠な“産業・精神・文化”のバランスを大事にした発展を世界規模で推進していくことを目的として、このように名付けられました。

海外 オイスカ・インターナショナル

戦後80年に日台友好を深める
台湾友好親善視察団を派遣

4月20〜24日、オイスカ・インターナショナルの中野悦子総裁をはじめとする会員18名が台湾を訪問しました。今回の渡航は、今年で戦後80年という節目を迎え、日本と台湾の友好をさらに深めることを目的に実施されたものです。一行は20日、台北市内で開催されたオイスカ中華民国総会（以下、総局）の役員総会と総局主催の「台湾農業未来への転換」フォーラムに出席。現地での会員と懇談し、友好を深めました。翌21日には、台湾の国家発展委員会、農業部、外交部を表敬訪問。農業部では、陳駿季部長（日本の大臣に相当）との懇談を通じて、



いずれの訪問先からも、オイスカの50年以上にわたる台湾での活動に厚い感謝の意が示された



中野総裁（左）と陳駿季部長

台湾と日本の農業施策について活発な意見交換が行われました。また、22・23日にかけて、屏東県の戦争追悼施設のほか、同県と桃園市の総局会員企業を訪問し、有機農業とスマート農業を融合した先進的な取り組みを視察しました。官民の各分野で活躍する総局会員の姿に触れた今回の訪問は、今後さらなる協力と交流の可能性を見いだす機会となりました。

台湾とオイスカとのつながりは深く、日台国交断絶の翌1973年に、創立者・中野與之助翁が支援者を伴って訪台し、民間レベルの交流や学び合いの重要性を協議した時に始まり、以降、農業分野での交流を盛んに行っています。今後も日本と台湾の友好関係の発展に向け、台湾総局と共に歩みを進めます。

海外 ミャンマー地震緊急支援

日本からの支援を励みに
現地スタッフの懸命の活動続く

本誌5月号TOPICで既報の通り、3月28日にミャンマー中部マングレー付近を震源とするマグニチュード7.7の地震が発生し、オイスカの研修センターのある地域も深刻な被害を受けました。地震発生直後から、研修センターのスタッフは「地元の人たちの力になりたい。寄り添いたい」と、自主的に支援活動を開始。インフラの崩壊による停電や物資不足、連日気温40度を超える過酷な環境下で、水や食糧の配布、がれきの撤去などに取り組みました。



がれき撤去の様子（3月30日）



がれきの撤去作業をしている人々へ配布するため、センターで100名分のお弁当を用意（4月2日）

後も支援を必要とする人々の増加が見込まれる中、現地からの協力要請を受け、4月1日より「ミャンマー地震緊急支援募金」を実施しました。クラウドファンディングサイトREADYFORでの呼びかけを含め、6月17日時点で、506名の皆さまから総額1千66万6743円のご寄附が寄せられました。現地スタッフからは「日本からの支援に励まされています。これから一所懸命に活動を続けていきます」とのメッセージが届いています。皆さまの温かいご支援に、心より感謝申し上げます。



食糧を受け取り、笑顔を見せる被災地の人々（5月16日）

443世帯に対し、米や食用油、センターで加工したパンやケーキを配布（5月末時点）。現地で連携している農業省にも食糧支援を実施しました。さらに、被害が特に甚大だった45世帯には義援金を届けるなど、より地域の状況に即した支援を進めています。

5月末時点で、被災地における死者は3千700人を超え、被害を受けた家屋やインフラの復旧には相当な時間がかかると思われています。

今後も現地と連携しながら、必要とされる支援を確実に届けられるよう、寄附金を活用しながら、活動を続けていきます。

なお、「ミャンマー地震緊急支援募金」は6月30日をもって終了しましたが、引き続き皆さまのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



国内 支部・推進協議会 全国で総会開催 今年は富山・岐阜県支部50周年

4月から6月にかけて、オイスカの各支部、推進協議会が総会を開催しました。

6月10日には、札幌パークホテルで北海道支部の総会が行われ、2024年度の決算および事業の報告がされるとともに、25年度の予算・事業計画が承認されました。当日は、ウズベキスタン沙漠化防止プロジェクトの富樫智専門家も出席し、プロジェクトの現状や今後の展望について説明。北海道支部は、12年から中国・内モンゴルの沙漠緑化プロジェクトの視察ツアーを実施するなど、同氏の取り組み緑化事業を長年支援しており、今年度は、ウズベキスタンへの視察も計画しています。

また、5月27日には三重推進協議会が総会と「三重のつどい」を開催。あわせて「ミヤマー地震緊急支援募金」の報告会も行われ、海外事業部人材育成担当部長の藤井啓介が、被災地の被害状況や、求められている支援、現地スタッフが中心となり展開している支援活動の様子について報告しました。



上／富樫智専門家からの報告に、出席者から高い関心が寄せられた（北海道支部）

下／中部日本研修センターで学ぶミャンマー人研修生や技能実習生も参加する賑やかな会となった（三重推進協議会）

国内 人材育成事業 マレーシア・サバ州からKPD一行が来日 四国での人材育成現場を視察

4月18～21日、マレーシア・サバ州の農村開発公社（KPD）から、ゼネラルマネージャーはじめ3名が来日。同州出身スタッフ3名が勤務する四国研修センターと技能実習生の受け入れ先企業2社を訪問しました。オイスカは1989年よりKPDと協働で青年研修センターを運営し、農業や食品加工などを通じた青年育成に取り組んでいます。今回の訪日は、昨年の西日本研修センター訪問に続き2度目で、KPDより、ほかのセンターと同州からの技能実習生受け入れ先の視察の要請を受けて実施されたものです。

一行は、センターでスタッフや研修生と交流後、四国とサバ州両センターの研修の取り組みについて意見交換を行い、香川県内の企業を訪問。技能実習の様子を視察しまし



四国研修センターで交流を深めたKPD一行（前列左から3人目、5人目、後列左から2人目がKPD関係者）

海外 オイスカ代表団派遣 マラ公団新体制と会談 モルディブでの農業支援模索も

5月22～29日、公益財団法人オイスカの永石安明専務理事はじめ2名がマレーシアを訪問。次いで3名を加えた5名の代表団がモルディブ共和国を訪問しました。

マレーシアでは、地域開発省傘下のマラ公団のダト・ズルフィキリ・オスマン新理事長、マハザン・テー新副理事長と会談。マラ公団は1967年にオイスカと協力協定を

締結し、以来、人材育成において連携を深めてきました。今回、同公団の執行部刷新にあたり、さらなる連携強化を図るため、今後の高度人材の登用や、日本・マレーシアビジネスフォーラムの開催について協議しました。

モルディブでは、農業・動物保護省のアハメド・ハッサン・ディディ大臣を表敬訪問。同国は、食糧自給率向上を目



モルディブ共和国のディディ農業・動物保護大臣（中央）と懇談

的とした農業生産力強化のための指導者育成を重要視しており、今後の農村青年育成について意見交換が行われました。また産業・生活廃棄物処理施設を訪問し、ゴミ処理問題について政府当局者との会談の場が持たれました。

能登半島地震復興支援レポート

木育でつながる子どもと森と地域の輪

木育とは？

木に触れ、人と森、自然とのつながりを学ぶことを通じて、子どもたちの五感や豊かな心を育むことを目的とした教育活動のこと。森の木を資源として有効活用することにもつながっている



能登ヒバのつみ木

珠洲市つばき保育園

長年の活動でつながる縁

山梨県支部は、オイスカの理念の実現のため、富士山の森づくりや木育の取り組みを



土砂災害の爪痕がいまなお残る(25年3月現在)

はじめ、さまざまな企業・団体と協働しながら、自然と人の持続可能な循環型社会の構築に向けた活動を進めてきました。その中で「縁のあった団体から、震災直後、「オイスカで何か支援できないか」と支部にお問い合わせをいただきました。2011年の東日本大震災時に、子どもたちへの支援として「森のつみ木広場」を実施した経験があるものの、緊急支援を主とする団体ではないオイスカにすぐに行うことは少なく、かえって現地の復興の妨げになってはいけないと自粛していました。

「被災地支援のために何ができるか、一緒に検討できないか」。思いが形となって動きはじめたのは、木育事業で「縁のあった団体からの、こ

のお声がけからでした。被災地ではインフラが復旧せず、家屋も倒壊したままとなっている状態です。そうした地域で暮らす子どもたちに、木育の経験を活かして心のケアの面から支援する構想が生まれました。

「求められていたもの」とは

最初の活動として、(財)国土緑化推進機構の関係者からつないでいただいた「縁を頼りに、24年9月13〜16日に石川県珠洲市と輪島市を訪問。現地の確認とニーズ調査を行いました。これまでにつながりのない地域で正確なニーズを掴めるのか不安でしたが、珠洲市に入った夜、夕食時に偶然市役所の方と出会いました。これも「何かできないか」という思いが一つのご縁のように感じます。そこで、「被災地では緊急性の高い支援が優先され、インフラの整備も遅れており、子どもたちが安全に遊べる場所がない」「大人に子どもたちと向き合う余裕もその環境もない」といった現場の声を聞くことができました。

2024年1月1日に発生した、石川県能登地方を震源とする最大震度7の大地震。オイスカ山梨県支部は、同9月に木育を通じた支援を開始し、心と地域産業の復興を目指して活動を実施、継続しています。「何かできないか」という思いが、どのように地域とつながり、木育という形で実現していったのか。これまでの活動を振り返ります。(山梨県支部会長代行 田中美津江)



上手く循環させることで森も地域も元気に！

また公営の子どもセンターを訪問し、私たちの構想を伝えると、「東日本大震災の後、そのような支援があったことを聞いていた。保育園の職員も、日々子どもたちのケアに試行錯誤しているのでもともとありがたい」というコメントをいただきました。一方で、「冬が来たら外で遊べなくな。子どもたちが落ち込まない心配だ」という切実な声も聞かれました。

準備を開始。助成金獲得などに動く中で、11月にはオルビス株式会社のご協力を得ることができました。同社とは、森づくり事業で長年連携しているほか、東日本大震災時の活動でも長期にわたりご支援いただいております。12月に、珠洲市のつぎ保育園でのつみ木広場の実施や、木製玩具の寄贈ができたことは、この応援があつてこそでした。また他地域から二次避難している親子を迎えて金沢市でも広場を開催し、雪が降る本格的な冬の前に、木製玩具の温もりを届けることができました。

「本当の復興」を目指して

山梨県支部は、人と木を育み、循環を生み出すことが持続可能な社会の構築につながるという信念のもと、子どもが木に触れ、遊びを通じて森や自然について理解を深める「木育ひろば」、広場を開催する「木育ひろば」、広場を開催する「木育ひろば」を伝える大人対象の「木育スクール」、そして木材を積極活用することで林業の再興につながる「木製玩具の開発・普及」の3本柱で木育事業を進めています。

冬の間に現地の関係者とやり取りをする中で、珠洲市の保育園や子どもセンターから、自分たちで広場を実施できるよう「木育スクール」の開催希望がありました。また、能登の代表的な木材である能登ヒバを使ったつみ木製作を、地元で行う動きも出てきました。これらは中央共同募金会の「ボラサポ・令和6年能登半島地震第6回助成」を得て3月に実施でき、3本柱全ての活動が実現しました。当面支部でつみ木を作る際には、この能登ヒバを活用していきたいと考えています。林業と

いう地場産業が活性化し、森も人も元気になることが「本当の復興」に向けての大きな一歩となるはず。被災された皆さんから、「ゼロからの生活になった」という声や「これからなんでもできる」という前向きな言葉など、さまざまな思いを聞きました。私たちの生活は物質主義となり、自然から離れてし

まったことでサイクルを失っているように感じていたが、被災地ではこれまでの生活がリセットされたことで、改めて自然とのつながりを意識しているように感じました。時に脅威となり、時に我々を守ってくれる自然と、礼節をもって付き合う大切さを、木育を通して引き続き伝えていきたいと思っています。

珠洲市子どもセンターからのコメントをいただきました

震災後、子どもたちに木の玩具を寄附いただいたことをきっかけに始まったオイスカとの交流。保育園で開催したつみ木広場では、全身を包み込むつみ木のシャワーに子どもたちから大きな歓声があがりました。最初は緊張していた子ども木育ファシリテーターとのやり取りで集中を深め、終了後は「もっとしたかった」「次はみんなで大い街を作りたい」といった声が聞かれました。その後保育施設で働く職員へ向けて木育スクールを開催し、つみ木から広がるさまざまな支援の形を学ぶことができました。木製玩具は触れているだけで心が落ち着くように感じます。復旧・復興を目指して日々邁進する被災地で、今後も保育の中で、心を癒してくれる木の大切さや自然への興味を持つきっかけになるよう、木育を遊びの中に取り入れていきたいと思っています。



上／多様な参加者が集まった木育スクール(金沢市)
下／保育士・子どもセンター職員対象の木育スクール(珠洲市)

ふるさとの山に 森を蘇らせた

ロペス氏は、1982年にオイスカの研修生として来日。静岡県で養蜂の研修を受ける中、日本の豊かな自然が維持されている山々を目の当たりにしました。ロペス氏の出身地であるヌエバビスカヤ州は、かつて鬱蒼と茂る熱帯雨林地帯でしたが、第二次世界大戦後、輸出や開発のための伐採や、地域住民による牛の放牧などにより、森林の9割近くが消失。はげ山が日常の光景だったロペス氏にとって、日本の美しい山々は衝撃的なものでした。



一面のはげ山だった(1996年)

困難の中でも 一歩ずつ

「いつか、ふるさとの山に森をよみがえらせた」。84年に研修を終え、強い決意を胸に帰国した後、研修の経験を活かして養蜂を行う傍ら、日本からの開発団員が取り組んでいた柑橘類の栽培にも挑戦。さらにオイスカの研修生OB会(OTTAA)を立ち上げ、初代会長として後輩の指導にあたるなど、精力的に活動を展開していきました。その間も、植林プロジェクトの実施のために、フィリピン政府との交渉やドナー探し、地元自治体との調整を続け、93年、ついにロペス氏を中心としたOTTAAによるヌエバビスカヤ植林プロジェクトが始まりました。

大きな目標を掲げて動き始めたプロジェクトですが、その道は決して平坦なものではありませんでした。長年のはげ山だった土地はやせており、さまざまな樹種を植えても十分に成長できずに枯れてしまう種類があったり、ヌエバビスカヤ州のある北部ルソンは台風の通過点であることから、



ジェットシューターを背負う消防チーム

強い風雨に負けて成長の悪い木々がなぎ倒されてしまったりと、一進一退の状況が何年も続きました。しかし、残った木々の落ち葉が少しずつ土壌を豊かにし、2012年からは、それまで生育が難しかった樹種の植栽も徐々に進められるようになりました。

一方で、現在も日々立ち向かっている課題もあります。それは山火事です。3〜5月の乾季には特に発生しやすく、毎年のように火災に見舞われています。高温による自然発火だけでなく、不意なタバコのポイ捨てなどが原因のこともあり、発生を防ぐことはとても困難です。そのため、周囲からの延焼を防ぐことに主眼を置いた対策として植林

【特|別|企|画|】

受け継がれる「ふるさとの森」

～ヌエバビスカヤ植林プロジェクト～

3月18日、フィリピンのマリオ・ロペス氏(写真右)が71歳で逝去しました。

ロペス氏は、ヌエバビスカヤ州の荒廃した山々を再生しようと1993年に植林プロジェクトを立ち上げ、以来森づくりに尽力。

日本からも多くのボランティアが駆け付け、現地の人々と共に汗を流しました。

現在、長年維持管理に努めた植林地は多様性あふれる豊かな森となり、600haにおよぶプロジェクトサイトは次代に受け継がれようとしています。プロジェクトのこれまでとこれからを、ロペス氏の活躍とともに振り返ります。





苗木を持つロレンソ・ロペス氏(右端)とプロジェクトに携わるワーカーや住民たち

地に幅約10m、総延長約15kmの防火帯(火が燃え広がらないように下草を帯状に刈り、燃えるものがない状態にしたもの)を設置・維持し、火災発生時には、地域住民を中心に組織した消火隊が命がけの消火活動に当たっています。昨年3月には過去最大の約100haにおよぶ被害を受けましたが、防火帯と消火隊の懸命の消火作業、地元アリタオ市の環境天然資源局からの応援により、プロジェクト地の全焼は免れました。これも、地域の理解を得て、協力を密にしながら森を育て、守る工夫を続けてきたロペス氏はじめ、OBたちの取り組みがあってこそです。

かけがえのない遺産を未来へ

これまでの30年を超える活動で、ヌエバビスカヤの山々は大きな変化を遂げました。森林が無くなったことで水源かん養機能が失われ、キラン(水無し)村と名付けられた麓の村では、乾季でも山からの湧き水が枯れることがなくなり、年3回の米作りができるようになりました。また、豊かな自然が戻ったことで、動植物の多様性も回復し、18年に行われた専門家による調査では、41種類以上の鳥類が確認されました。その中には、絶滅の危機に瀕しているフィリピン鷺も含まれており、サルやリスなどの哺乳類を捕食する鷲が生息できるほど多様性が回復していることを示しています。こうした長年の活動と功績が認められ、22年にはヌエバビスカヤ州知事から感謝状が贈られています。プロジェクトの責任者として、最前線でふるさとの森づくりに尽力してきたロペス氏は、大きく成長した森を「yagay」と表現したそうです。その言葉の通り、ヌエバビス

カヤの森は、地域の大切な森として、次代へと受け継がれようとしています。ロペス氏の長男であるロレンソ・ロペス氏は、これからの取り組みについて次のように話します。――亡き父の遺志を継ぎ、これからも地域と協力しながら森づくりを進めていきます。また、成長した森を、学校の子どもたちを対象とした植樹やキャンプ、セミナーなど環境教育の場としても活用していく予定です。さらにプロジェクトの中核を担う住民やワーカーの収入向上を図るため、キノコや野菜栽培、養豚、食品加工などの取り組みも導入していきたいと考えています。私たちのプロジェクトにご支援くださる皆さまに、心より感謝申し上げます。持続可能な環境づくりに取り組むオイスカの一員であることを誇りに思います。

たくさんさんの困難に立ち向かい、多くの人々とともにつくり、守り続けてきたふるさとの森。さらに未来へと遺していくけるよう、日本からも引き続き応援をよろしく願います。

日本から Message

公益財団法人オイスカ

専務理事 永石安明

ロペス氏は、誰にでも親身になって接する気さくな性格で、地域の住民や日本から訪れたボランティアなど、たくさんの人々に慕われていました。私自身、現地に滞在していた際には、よく食事をともにしながら、プロジェクトの将来について語り合ったことを覚えています。

また、強い使命感を持った人物でもあり、日本から帰国後、植林をしなければ次世代の子どもたちが苦しむことになるという信念のもと、日本から派遣されたオイスカ技術員と協力して、93年に地元アリタオ町で植林プロジェクトを立ち上げました。以来、日本からの多くの支援者、ボランティアの協力を得ながら、地域の環境保全のために尽くした人生でした。改めて故人の功績に感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。今後は、そのロペス氏の遺志を受け継いだ長男のロレンソ・ロペス氏の活動を、日本からもサポートしていきます。

全国電力関連産業労働組合総連合(電力総連)

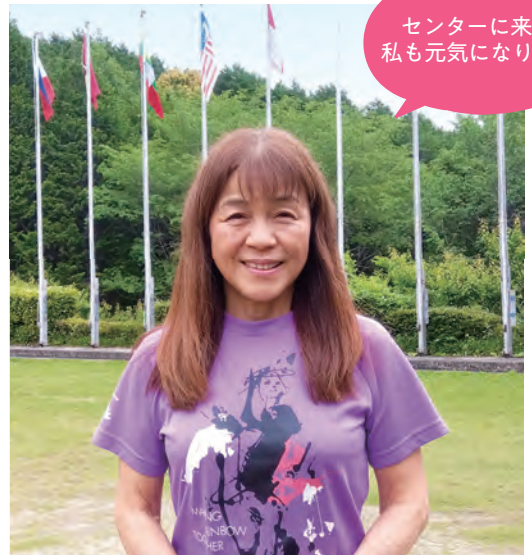
会長 壬生守也 様

電力総連は、オイスカ様よりマリオ・ロペス様をご紹介いただき、1995年より植林プロジェクトに参加してきました。現地では、ロペス様をはじめ多くの地域の皆さまに温かく迎えていただき、フィリピンの歴史や風土、自然を守ることの大切さなどを学びました。これまで参加した421名は、こうした貴重な経験を糧に日本各地で活動を続けています。ロペス様が長年ご尽力されたプロジェクトは、森林再生とともに、水源回復によって地域農業を発展させ、キラン村やアリタオ市の生活基盤を確立しました。その功績は多大です。電力総連が、ロペス様の取り組みに微力ながらお力添えできたことは、私たちにとってもかけがえのない経験であり、大切な宝物です。心より感謝申し上げます。ヌエバビスカヤをはじめ、フィリピンの今後益々の発展とともに、オイスカ様の更なるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

今月のこの人

福田 香緒里

オイスカ愛知県支部会員



センターに来ると私も元気になります！

日本の歌を通して海外の若者が日本に親しみを感じてくれたらうれしい

毎週月曜日の朝、中部日本研修センター（以下、センター）に技能実習生たちの明るい歌声が響きます。退職後も小学校で音楽を教えている福田香緒里さんによる週に一度の音楽の授業。どのような思いで実習生の指導をしてくださっているのか、お話をうかがいました。

——授業を見学させていただき、こちらも元気になりました。歌を通して日本語や日本の文化などを伝えてくださっているんですね

私が一番楽しんでいるのが分かりました？ 教えるのは、「あいさつの

歌」「四季の歌」「ふるさと」「うみ」「数え歌」「未来へ」「上を向いて歩こう」と決まっているんです。基礎研修でセンターに滞在する技能実習生に教えているのですが、彼らのセンター滞在は2カ月ぐらいなので、どんな入れ替わっていきます。だから同じ歌でも全然飽きません。マレーシア、インドネシア、ミャンマー、フィリピンなどから来ている若者たちが目をキラキラさせているのを見ると、物がなく、便利



「守ろう自然」のゼッケンでフルマラソン完走！

歌「四季の歌」「ふるさと」「うみ」「数え歌」「未来へ」「上を向いて歩こう」と決まっているんです。基礎研修でセンターに滞在する技能実習生に教えているのですが、彼らのセンター滞在は2カ月ぐらいなので、どんな入れ替わっていきます。だから同じ歌でも全然飽きません。マレーシア、インドネシア、ミャンマー、フィリピンなどから来ている若者たちが目をキラキラさせているのを見ると、物がなく、便利

ではなかった時代の日本の若者もこんな目をしてたなあと感じます。日本に来て、頑張って学ぼうとする彼らの気持ちが目に表れているのだと思います。Xiniaoの「未来へ」は人気で、最後の歌詞「未来へ向かってゆっくりと歩いていこう」の部分が、実習生たちの明るい未来につながっているようにも思えます。

——どういったきっかけではじめられたのですか

オイスカを知ったのが28年ほど前でしょうか。当時受け持っていた児童たちが、総合学習の中で国際と自然について学びたいということで調べていたらセンターに行きついて、今の小杉裕一郎所長がまだ若手職員さんの頃でしたけど、学校の授業に来ていただきました。それをきっかけに入会をしたのと、センターで長く歌を教えていた酒向貞子先生が私の大先輩だというのもご縁の一つです。酒向先生が立ち上げて続けている豊田市内でのミュージカルも私と仲間たちが引き継いでいて、昨年度は40



子どもから大人までみんなでつくるミュージカルの一場面

とある日の

福田さんの1日

早寝早起き＋バランスの良い食事＋適度な運動で健康的な毎日を過ごしています。

月曜日は、研修生との歌の授業でさらにエネルギーをチャージ！

04:00 起床

朝食の下準備をしてからランニング用の服に着替えてストレッチ。

05:00 ウォーキング&ランニング

退職後、日課となった1日おきのウォーキングとランニング。この日は季節の移り変わりを感じられる楽しい5kmの道のりをランニング。

09:00 オイスカへ

先週入国したばかりのインドネシア人実習生4名の自己紹介をノートにメモしてから授業開始。

まずはあいさつの歌から。指を使う数え歌は、介護の実習生がお年寄りと一緒に歌えるように。



10:30 卵の配達

センターの卵を楽しみに待っているお宅に車でお届けします。

センターの卵は新鮮で美味しい！



13:00 スポーツジム

週に5回、ジムで体を動かします。毎年名古屋ウィメンズマラソンに挑戦しています！自己ベストは5時間1分。

18:30 夕食

センターでもらった野菜が食卓に上ることも。

バランスの良い食事を考えます



10:00 就寝

健康のためには睡眠も大切。

明朝はウォーキングのため10時に寝て5時半に起きますが、ランニングの場合は9時に寝ます。



「2019年の大阪マラソンではチャリティランナーとして走ってくださったんですね」
センタースタッフからのお誘いで参加しました。現役時代は血圧が高かったため、退職後は運動、食事と睡眠などで改善しようと思い、そこからマラソンも始めました。チャリティランナーとしての条件である7万円を集められるか不安でしたが、ミュージカルや通っているジムの仲間たちにも支援してもらい出場できました。ゼッケンに5文字まで名前などの文字が入られることになったので、「守ろう自然」と入れたら、沿道から「守ろう自然、がんばれ！」って声をかけられました。海

岸林再生プロジェクトのことも興味があったので、チャリティランナーとして支援できてよかったです。今は大阪マラソンの日程が変更となり、名古屋ウィメンズマラソンと一週間違いになってしまったので、もう出場はできませんが、プロジェクトにはいつか足を運びたいと思っています。

福田 香緒里（ふくた かおり）

小学生の頃から目指していた教員になり、38年間勤める。在職中より、自主研究グループ（音楽）に所属し、授業研究や指揮法などを学ぶ。特にプロの指導者を迎えて、子どもたちと創るミュージカル上演に向けた練習を行っている。退職後も講師として週10時間勤務しながら、自主研活動を継続。

センタースタッフからひとこと



オイスカ
中部日本研修センター
研修担当第二課長

宗像ジュイエ

音楽の授業があまり充実していない国から来た実習生にとって、福田先生の歌の授業は、とても楽しい時間のようです。実習先に配属されるまでの2ヵ月程をセンターで過ごす彼らは、毎日日本語の勉強に追われています。教科書の単語を覚えるのは難しくても、歌の中の言葉は、先生の解説とともにメロディーとストーリーとで楽しく、自然に覚えていくので、歌の力、先生の指導力の大きさを感ずります。

私たち日本人は、子どもの頃から当たり前に触れてきた自然の風景や季節の移り変わりなどを通して共通の感覚、感性のようなものを持っていますが、それらは海外から来た実習生たちが勉強して身につけられるものではありません。でも福田先生の歌の授業を通して、彼らとそうした感覚を共有できるようになっていると感じます。海を見た実習生が自然に「う～み～は……」と歌い出した時、とても感動しました。

先生の明るく元気で、誰かのために自分ができたいというお気持ちが、歌とともに実習生たちに広がっていく。そんな授業をこれからもずっと続けていただきたいです。

歴史さんぽ

オイスカ

Vol.15

手づくりの地域開発拠点 ミャンマー農村開発研修センター



1996-97年



2カ国の力を合わせて
つくり上げました！

2020年



中央の大きな木が菩提樹。国民の9割が仏教徒のミャンマーでは、仏教のシンボルである菩提樹は特別な意味を持つ

農村地域の青年リーダー育成の拠点として、1997年7月、パコック県に農林業研修センター（現農村開発研修センター）が開所しました。

ミャンマーでのオイスカ活動は、中央乾燥地域の貧困削減のため、94年に国連から共同プロジェクトの打診を受けたことを契機に、この研修センターの建設から始まりました。日本から開発団員として派遣された建築技術者や、ミャンマーの農業灌漑省関係者、大工、地元住民と協力し、整地から建設まで機械を使わず、人力で作業が進められました。当時を知る永石安明オイスカ専務理事は「周囲には木々もなく、日中の温度が40～50度にも達する乾燥

地帯での作業は過酷なものだったが、日本人技術者のひたむきな姿は現地の方も驚くほどだった」と振り返ります。また96年には、経団連自然保護協議会の視察団が訪緬し、菩提樹を記念植樹。現在その菩提樹は大きく成長し、涼しい木陰が研修生の憩いの場となっています。さらに97年の開所式には、日本から現地の活動を支えてきたオイスカ会員約30名が参加し、盛大なセレモニーが行われました。

日緬の多くの人の手によってつくられたセンターは、21年のクーデターや今年3月の地震被害に見舞われながらも、人材育成のみならず地域開発の拠点として活動を続けています。

写真から伝わる
さまざまな思いに
フォーカス！



バナナの実が食材に、
葉は料理を包むのに
使います！



\\ パプアニューギニアのお弁当！ カラマップ //

オイスカの研修センターがある、ラバウル地区でよく食べられるお弁当、「カラマップ」を紹介します。カラマップは現地語で「包む」を意味し、その名の通りバナナの葉っぱに包まれています。子どもたちはココナッツなどと一緒にランチとして学校に持っていき、食べ終わったら、バナナの葉を学校の校庭に捨てて帰宅しています。エコですね！

そして肝心の中身。実はラバウルの伝統的な調理法でつくったアイギールと同じです。アイギールは、バナナ、アイピカ（葉オクラ）、魚、ピーマンなどを、焼いた石とバナナの葉を用いて蒸す料理で、ココナッツミルク、ショウガ、塩などで味付けをしま

す。ココナッツミルクは、暑さによる腐敗が早いので、ショウガをたくさん入れます！ また、食材としてバナナのほかに、庭の畑で採れたサツマイモやタロイモ、タピオカを使うときもあり、食卓でもよく食べられます。

このアイギールを薪の火で熱して殺菌をし、柔らかくしたバナナの葉で包んで、お弁当「カラマップ」にしているのです。

（PNG駐在代表 荏原）



キウイはヨーグルトに
よく合います！



FOOD

お！ススめ
OISCA

国内外のオイスカスタッフから、さまざまなジャンルの「オススめ」を紹介します！

四国研修センターの手作りジャム

イチゴ・キウイ・スモモ



私は四国研修センターのジャムのファンです。イチオシ理由は、果実、砂糖、レモン果汁のみで作られていて、添加物が入っていないこと。市販のジャムではなかなか巡り合えない逸品です。さらにべったりとした甘さがなく、フルーツの味がきちんとします。ある日、めったに食べ物について語らない夫が「これ美味しい」とつぶやき、ヨーグルトに入れているのを見て、心の中でガッツポーズしました！（首都圏支部U）

東急ホテルズ&リゾーツ 株式会社が紺綬褒章受章

2025年3月7日、東京都渋谷区にあるセルリアンタワー東急ホテルで、東急ホテルズ&リゾーツ株式会社への紺綬褒章伝達式が行われました。

同社は、お客さまがご宿泊時に使用されなかったアメニティに応じて寄附を行う環境保全活動「グリーンコイン」制度を通して、2001年から「子供の森」計画への支援を開始。そして08年からは、東京の水源地である山梨県丹波山村において包括的な取り組みである「東急ホテルズ・グリーンコインの森」活動も始まり、海外・国内でのオイスカ活動を応援していただいています。



伝達式では、オイスカの中野悦子理事長より「始めることはできても継続が難しいこのようないきなり20年以上続けていただいていることが認められての受章を、オイスカとしても嬉しく思います」と挨拶。同社の村井淳社長からは「今後も「地球にやさしいホテル」として、当社のパーパスである「ひととまちと、こころ満たされる時間（とき）」を創る」活動への取り組みを深めてまいります」とご挨拶いただき、同社社員も見守る中で和やかな伝達式となりました。

2025オイスカ夏募金 ご協力お願いします

現在、2025オイスカ夏募金を実施しています。各国で子どもたちが進める森づくり。小さな手が植える苗木は、やがて森となり、水を育み、地域の暮らしを支えます。大人の役目は、その成長を支え、見守ること。子どもたちに豊かな自然とともに生きる未来を遺すため、引き続きご協力お願いいたします。

■期間
6月10日(火)～8月24日(日)

■使途
オイスカの公益事業全般

夏募金特設サイト
はこちら！



研修センター日記

Vol.2 四国研修センター



笑顔で走り
切りました！

走ってつなげ「笑いのたすき」、初の駅伝大会出場！

初めて駅伝に
挑戦!!

四国研修センターでは、これまで「つな引き」や「アジャタ(玉入れ)」など、地域のスポーツ大会への参加を通して、地元の方々と交流を深めてきました。

今年は、2022年1月に現役を引退した元陸上競技選手、富士加代子氏が企画する「笑って走れば福来たる駅伝 in 香川」にセンターとして初めて参加。中には、毎朝の数百mのジョギングでも息が絶え絶えになるような研修生もいましたが、当日は皆で力を合わせてたすきをつなぎ、1.9km×8区間を、1時間30分31秒で完走！ 見事MVP「笑って走って福来たで賞」を受賞しました。走ることの楽しさやみんなで協力して一つのことを成し遂げる達成感を感じた1日となりました。(吉田)



走るのは本当に大変でしたが、新しいことへの挑戦のためにがんばりました！
(イマ・インドネシア/左から5番目)

~~~~~

## 二 計 報



オイスカタイ総局  
役員  
カヤ・トンヌイ氏

5月4日、オイスカタイ総局役員のカヤ・トンヌイ氏が54歳で逝去しました。故カヤ氏はタイ政府天然資源環境省職員としてマングローブ等の再生・保護活動を長らく主導し、オイスカタイ役員としてもタイ各地の事業における活動計画策定や指導などの重要な役割を担当。またその人柄で多くの同僚や現地住民、そして日本人訪問者からも慕われました。ご冥福をお祈りいたします。



オイスカ活動  
鹿児島県推進協議会会長  
海江田 順三郎氏

5月5日、オイスカ活動鹿児島県推進協議会の初代会長として長年尽力し、オイスカ桜島の森づくり活動をはじめ、県内の環境保全事業にも取り組んだ海江田順三郎氏が97歳で逝去しました。

同氏は、高島屋開発の代表取締役社長や鹿児島県日中友好協会会長を歴任し、国内外の交流推進に多大な貢献をされました。生前のご功績に感謝申し上げますとともに、心よりご冥福をお祈りいたします。

# ご支援ありがとうございます！

## 新会員の紹介

新しく会員になられた方は次の通り。(4月1日～4月19日までの間、本部登録済み。順不同、敬称略)

■特別法人  
【東京都】オフィスサプライ株式会社  
【愛知県】株式会社H・W

■維持法人  
【東京都】株式会社セリアコーポレーション  
【富山県】北電技術コンサルタン  
株式会社／株式会社ケーブルテ  
レビ富山

■維持個人  
【宮城県】木村良輔／米川修司【茨  
城県】狩野平左衛門【岳也】  
増田寛治／神谷蒼【岐阜県】奥村真  
左也【香川県】美馬幹晃【福岡県】友  
納洋子／株式会社CARRY／株  
式会社つなぐ看護師.com

## 寄附

3月1日～4月30日までにいた  
いた寄附は次の通り。(順不同、敬  
称略)

●COSMOエコ基金／フィリ  
ピン中部ルソン自然林再生プロジェ  
クトとパプアニューギニア熱帯雨  
林保全プロジェクトに726万  
2856円

●千葉幹雄(東京都)／オイスカ  
の活動に300万円

●株式会社ジェイエイシーリク  
ルトメント／海外開発協力事業  
と「子供の森」計画に合わせて  
630万円

●エプソン販売株式会社／海外開  
発協力事業に200万円

●インフロニア・ホールディング  
ス株式会社および前田建設工業株  
式会社／「子供の森」計画に15  
0万円

●中村工業株式会社／人材育成事  
業に120万円

●三菱自動車工業株式会社／「子  
供の森」計画と「パジェロの森活  
動」に合わせて105万3008  
円

●三菱自動車STEP募金／「子  
供の森」計画に22万円

●デリシヤス株式会社／「子供の  
森」計画に103万461円

●ロジスティード株式会社／「子  
供の森」計画に100万円

●株式会社ジェーシービー／海外  
開発協力事業に100万円

●丸真株式会社／「子供の森」計  
画に60万8960円

●株式会社九電工／人材育成事業  
に50万円

●九州電力株式会社／人材育成事  
業に50万円

●一般社団法人北海道CGCみど  
りとこころの基金／啓発普及事業  
に90万円

●KDDI株式会社「キボウノカ  
ケハシ」／富士山の森づくりに71  
万7211円

●オイスカチャリティゴルフ実行  
委員会(福岡県)／人材育成事業  
に53万1308円

●東芝労働組合府中支部／「子供  
の森」計画に40万円

●株式会社長門屋商店／「子供の  
森」計画に39万3192円

●株式会社静岡銀行／啓発普及事  
業に33万9454円

●オイスカ坂出推進協議会／啓発  
普及事業と人材育成事業に合わせ  
て33万6000円

●仙台トヨベツ株式会社／「海  
岸再生プロジェクト」に27万  
8870円

●株式会社フレックスインターナ  
ショナル／オイスカの活動に20万  
円

●株式会社ヤクルト本社／「子供  
の森」計画に17万9670円

●SUMINOE株式会社／「子  
供の森」計画と海外開発協力事業  
に合わせて15万2000円

●株式会社ベストワン／「子供の  
森」計画に15万439円

●auエネルギー&ライフ株式会  
社／啓発普及事業と「子供の森」  
計画に合わせて10万8100円

●株式会社トーマンデバイス／オ  
イスカの活動に10万円

●株式会社角産(東京都)／オイ  
スカの活動に10万円

## ミャンマー地震 緊急支援募金

4月1日～4月30日までに「ミヤ  
ンマー地震緊急支援募金」にいた  
だいた寄附(10万円以上)は次の  
通り。(順不同、敬称略)

●株式会社シアースホームグルー  
プHD／50万円

●森田克彦(秋田県)／20万円

●瓜生道明(福岡県)／10万円

●一般財団法人タイム技研社会貢  
献委員会／10万円

●株式会社サンフラワー／10万円

●吉川久喜子(愛知県)／10万円

●根本明美(福島県)／10万円

●川崎浩(茨城県)／10万円

●川瀬善靖(三重県)／10万円

## 海外赴任



4月15日、萬代  
保男フィリピン  
駐在代表が、マ  
ニラ事務所へ赴  
任しました

## 次号予告

OISCA  
SEPTEMBER | 9  
2025

《特集》  
2024年度 年次報告

OISCA 7月号  
発行人／中野悦子  
発行所／公益財団法人オイスカ  
〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目17番5号  
TEL (03) 3322-5161 FAX (03) 3324-7111  
E-mail oisca@oisca.org  
編集：OISCA／吉田俊通 倉本有沙  
アートディレクション／土肥幹人  
デザイン／土肥幹人 坂巻貴行  
印刷・製本／株式会社ケープリント

本誌掲載の記事・写真・イラスト  
などの無断転載を禁じます。



## 今月の表紙写真

Photo by Egi Hegriana



森のつみ木広場は世界  
にも広がっています。  
「子供の森」計画コー  
ディネーターたちが各  
地で活動を展開し、遊  
びながら自然とつなが  
る、学びの場を育てて  
います。  
(インドネシア西ジャワ  
州／ハリファイスラム  
中学校)



## 理念 — 人と育む、地球といきる —

## Vision

実現したい未来

人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、自然と調和して生きる世界

## Mission

日々果たすべき使命・存在意義

私たちは、すべてのいのちが健やかに守られるよう、感謝の心を持つ「人」を育み、いのちの土台となる森づくりや、共に助け合う社会づくりに取り組みます

## Value

私たちが大切にしていること

- 互いを理解し尊重
- 土から離れない
- 感謝の心を持ち、へこたれない「人」を育む
- 地域に根差し、住民の「良くしたい」を尊重

## Spirit

Visionを達成するために、  
私たち一人ひとりが  
日々実践する心のあり方

- 先を展望する想像力を持つ
- 着実に一步步積み重ねる
- 仲間とともにチーム力を発揮する
- 挑戦し続ける
- 経験から学び進化する
- 感謝の心を持つ
- 真摯である
- へこたれない
- 人間味にあふれ、楽しみながら！

公益財団法人オイスカ

オイスカは、会員・支援者の皆さまからの会費や寄附金によって運営されています。「公益法人」としての認定を受けているため、所得税・法人税・相続税、また、条例で定められた自治体では住民税も控除対象となります。受領書をお届けしますので、申告の際にご利用ください。

|              |              |        |
|--------------|--------------|--------|
| ● 特別会員（年額1口） | 法人／10万円      | 個人／5万円 |
| ● 維持会員（年額1口） | 法人／4万円       | 個人／2万円 |
| ● マンスリーサポーター | 個人／月々2,000円～ |        |

※特別会員と維持会員には、会員としての差異はなく、口数とともに、自由にお選びください。

※会員、マンスリーサポーターの皆さまには、広報誌「OISCA」をお届けします。

※新入会年度は、入会月によって納入金額が異なります。

## ● 「子供の森」計画支援金（年額1口） 個人・法人／5,000円

※海外の支援地域の活動案内（年1回）やニュースレター（年2回）をお届けします。

※子どもたちからのグリーティングカード（年1回）が届きます。

ウェブからも支援のお申し込みができます ▶ <https://oisca.org/>

お問い合わせや資料請求のお申し込みは

公益財団法人  
オイスカ〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5  
☎ (03) 3322-5161 ☎ (03) 3324-7111  
E-mail [oisca@oisca.org](mailto:oisca@oisca.org)  
<https://oisca.org/>

## 国内研修センター

中部日本研修センター 〒470-0328 愛知県豊田市助八町助八27-56 ☎0565-42-1101 ☎0565-42-1103  
関西研修センター 〒563-0101 大阪府豊能郡豊能町吉川1120 ☎072-738-3699 ☎072-738-3901  
四国研修センター 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本研修センター 〒811-1112 福岡県福岡市早良区小笠木678-1 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

## 国内支部

北海道支部 〒062-0931 札幌市豊平区平岸1条1丁目8-8 ラルズ生活研究センター1F ☎011-867-9684 ☎011-867-9685  
宮城県支部 〒980-0014 仙台市青葉区本町2-10-28 カメイ仙台グリーンシティビル6F ☎022-265-3350 ☎022-281-9077  
首都圏支部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2-17-5 (公財) オイスカ内 ☎03-3322-5161 ☎03-3324-7111  
山梨県支部 〒400-0016 甲府市武田1-2-5 3F ☎055-267-5951 ☎055-267-5951  
長野県支部 〒380-0838 長野市東町584 長野県経営者協会総務部内 ☎026-235-3522 ☎026-235-3529  
富山県支部 〒939-2226 富山市下大林280-3 ☎076-468-7120 ☎076-468-7128  
静岡県支部 〒431-1115 浜松市中央区和地町5815 ☎053-401-3980 ☎053-401-3981  
愛知県支部 〒470-0328 豊田市助八町助八27-56 オイスカ中部日本研修センター内 ☎0565-42-1162 ☎0565-42-1103  
岐阜県支部 〒503-8603 大垣市久徳町100番地 太平洋工業㈱本社内 ☎0584-47-9420 ☎0584-47-9419  
関西支部 〒541-0058 大阪市中央区南久宝寺町4-4-1 新御堂ビル ☎070-5550-7394  
広島県支部 〒730-0041 広島市中区小町4-33 ㈱エネルギーA&B/パートナーズ内 ☎082-242-7804 ☎082-242-4706  
四国支部 〒761-2103 香川県綾歌郡綾川町陶5179-1 オイスカ四国研修センター内 ☎087-876-3333 ☎087-876-3334  
西日本支部 〒811-1112 福岡市早良区小笠木678-1 オイスカ西日本研修センター内 ☎092-803-0311 ☎092-803-0322

## OISCA NETWORK

福島 〒963-0534 郡山市日和田町字大塚50-8 ㈱根本産業内 ☎024-958-2643 ☎024-958-3741  
茨城 〒311-0113 那珂市中台852-9 ☎029-298-2539 ☎029-298-2539  
神奈川 〒231-0021 横浜市中区日本大通り33 神奈川県住宅供給公社ビル1F ☎03-3322-5161  
三重 〒510-0958 四日市市小古曽1-1-7 中村建設㈱内 ☎059-345-1101 ☎059-345-0745  
奈良 〒630-8444 奈良市今市町53-6 ☎0742-63-6277 ☎0742-63-6277  
徳島 〒770-8555 徳島市寺島本町東2-29 四国電力㈱徳島支店総務課内 ☎088-656-4593 ☎088-656-4511  
徳島 〒790-0924 松山市南久米町乙24-84 ☎070-8524-0349 ☎089-948-8682  
高知 〒780-0870 高知市本町1-6-24 高知商工会議所総務企画部内 ☎088-875-1177 ☎088-873-0572  
佐賀 〒840-0826 佐賀市白山2-1-12-4F ☎0952-28-1368 ☎0952-28-1368  
長崎 〒858-0908 佐世保市光町109 ㈱堀内組内 ☎0956-47-2127 ☎0956-48-5069  
熊本 〒865-0055 玉名市大浜町2173-1 丸光グループ本社内 ☎0968-76-2161 ☎0968-76-2162  
大分 〒870-0001 大分市生石港町2-12-14 ㈱大地企画内 ☎097-533-2101 ☎097-533-5040  
宮崎 〒880-0879 宮崎市宮崎駅東2-4-9 ☎0985-26-5673 ☎0985-26-5673  
鹿児島 〒892-0817 鹿児島市小川町15-1 ㈱南日本総合サービス内 ☎099-224-3833  
沖縄 〒902-0077 那覇市長田2-12-9 セレクション長田101 ☎098-943-2871 ☎098-943-2881